

京都府商工会地域令和7年（2025年）景況調査結果【年間総括】

（京都府商工会連合会調査を基に整理）

1. 全体総括（結論）

令和7年の景況は、四半期ごとに改善と悪化を繰り返しながら推移し、年間を通じて「持ち直しきれない横ばい状態」となった。

特に「原材料・仕入価格の上昇」は全業種で共通課題として継続し、加えて「需要の停滞」「ニーズの変化」「人材不足」が重なり、経営環境は依然として厳しい状況にある。

2. 四半期別の動向

（1）1～3月期：横ばい・弱含み

- ・売上 DI：▲14.6（前期比変化なし）
- ・採算 DI：▲30.1（やや悪化）
- ・製造業は改善も、小売・サービスは悪化
→ 物価高によるコスト増の影響が顕在化

（2）4～6月期：回復局面

- ・売上 DI：▲12.5（改善）
- ・採算 DI：▲24.6（改善）
- ・サービス・小売・建設が回復牽引
- ・製造業のみ悪化
→ 一時的に持ち直しの動きが見られた

（3）7～9月期：回復継続だが偏り

- ・売上 DI：▲8.5（さらに改善）
- ・採算 DI：▲22.7（改善）
- ・建設・製造が回復
- ・小売・サービスは再び悪化
→ 業種間の格差が拡大

（4）10～12月期：再び悪化

- ・売上 DI：▲9.4（悪化）
- ・採算 DI：▲26.9（悪化）
- ・製造業が大幅悪化
- ・建設・小売は改善で下支え
→ 回復基調は持続せず失速

3. 年間を通じた主要課題

(1) コスト上昇（全業種共通）

- ・ 原材料・仕入単価の上昇が全期で上位
- ・ 人件費・経費の増加も継続
 - 価格転嫁が追いついていない構造

(2) 需要の変化・停滞

- ・ 「需要の停滞」「ニーズ変化」が複数業種で上位
- ・ 特に小売・サービスで顕著
 - 従来の販売方法では通用しにくい状況

(3) 人材不足の深刻化

- ・ 建設：技能者不足
- ・ 製造・サービス：人材確保難
- ・ 人件費上昇とセットで影響
 - 供給制約型の経営課題

4. 業種別の特徴

■ 製造業

- ・ 年前半改善 → 年後半に急悪化
- ・ 「需要停滞＋コスト増」のダブル影響
 - 最も不安定な業種

■ 建設業

- ・ 比較的安定
- ・ 年後半は改善
- ・ 人材不足が最大課題
 - 需給はあるが人が足りない構造

■ 小売業

- ・ 回復 → 悪化 → 改善と変動大
- ・ ニーズ変化・購買力流出が影響
 - 地域内消費の弱さが課題

■ サービス業

- ・ 回復力はあるが不安定
- ・ 人件費・需要変化の影響大
 - 構造転換が求められる業種

5. 景況の評価（総括）

本年の景況は、回復基調には至らず、改善と悪化を繰り返す1年となった。